



「自主・実践・友愛」

令和6年7月5日

第7号

# 野っ中 だより



## 願えば叶う

以前、陸上競技部の顧問をさせていただいていた頃のお話です。女子長距離走のオリンピックと練習を共に出来る機会があり、練習後に陸上部員がサインをもらいに行っていました。サインをもらった生徒は、とっても嬉しそうに「先生、サインもらったよ」と誇らしげに見せてくれました。そこには名前とともに「願えば叶う」と書かれており、サインをもらった生徒は自分の目標達成に向けて、より一層、小さな努力を積み重ねていきました。学校での部活動はもちろん、雨や雪が降っていても安全に留意しながら毎朝走り、食生活や睡眠時間等もよく考えて身体づくりや健康管理に努めていました。その成果は夏の全中大会や冬の全中駅伝出場という目標達成につながりました。また、学校生活の大部分を占める授業や家庭学習も主体的に取り組み、自分の思い描く進路決定に結び付けていました。

先日の激励会でも少しお話ししましたが、目標を達成したいと願うことは誰にでも出来ます。ただ「本気」になって、その思いを体現（行動）しなければ「願い」はなかなか叶いません。自分の思い描く「姿（目標）」に向けて、今の自分がどれだけの小さな努力を積み重ねているのかを振り返り、これからの行動に活かしてみてください。

今回、県体に出場出来なかったチームや個人のみなさんの中には「本気」で努力を積み重ねてきた生徒がたくさんいます。特に3年生は本当によく頑張りましたよ。激励会でも伝えましたが、これまで精一杯頑張ってきた自分を褒めてあげてください。

みなさんの頑張ってきた「過程」の中で培った力はとても大きく、これからのみなさんの人生の中で必ず糧となるはずです。そして、みなさんの努力する姿を目の当たりにしてきた後輩たちは、みなさんが創ってきたチームを目指して小さな努力を積み重ねてくれるものと思います。12年生にそんな思いを抱かせてくれたことに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



## 自分で自分をほめたい

オリンピックのマラソンで、2大会連続でメダルを獲得した有森裕子選手の言葉です。有森選手はオリンピック代表となるまでは、中学校でも高校でも、そして大学でも日本のトップランナーではありませんでした。しかし、目標に向かって努力を積み重ねる能力は日本のトップだったのだと思います。大学時代、朝晩も休日も本当によく走る姿を見ました。

1992年のバルセロナでの銀メダルに続き、1996年のアトランタで銅メダルに輝いた後のインタビューで「メダルの色は銅だけれど・・・初めて自分で自分をほめたいと思います」と語っています。たった一言ですが、努力を積み重ねる大切さや頑張った自分に自信を持つことの素晴らしさが詰まっています。



### <その1>

激励会の校歌練習の際、1年生が歌った後に自然発生的に沸き起こった拍手、とっても素晴らしかったです。まだ、変声していなくて歌い辛い中でも「さわやかに」「元気に」校歌を歌い上げた1年生。その歌声と気持ちの体現を褒め称えた、先輩たちのあたたかな気持ちと大きな拍手。全校生徒の一体感を感じた瞬間でした。

### <その2>

昨日行われた3年生の高校説明会。とても蒸し暑い体育館での開催でしたが、まったく微動だにせずに高校の先生方のお話を「目」と「耳」で聴く姿がとても素晴らしかったです。高校の先生方からは感嘆のお言葉をいただきました。野っ中の最上級生としてのプライドとこれまでに培ってきた大きな力の体現でした。さすが3年生！！